



One たった1つの自分の母校

“勝者”とは? ～地区総体に捧ぐ～

私は、長くバスケットボールの顧問をしてきました。数多くの有能な選手と出会いましたが、私には決して忘れられない一人の選手(ここでは、Sとおきます)がいます。

私は、Sが部長になって間もなく入院してしまいました。顧問がいない中でどんな風に練習してるだろうかと気にかけていたのですが、その間面倒を見てくれていた女子の顧問が、様子を教えてくださいました。

「彼らはスゴイね～。本当に一生懸命に練習してるよ。Sがね～、みんなをリードして、ホントにたいしたもんだよ。」



練習中は、Sが指示を出して、後輩に技術指導をして、練習がだらけてくると全員を集合させて喝を入れるのです。Sはいつもこう言ったそうです。

「お前たちさあ～、全然本気でやってないよ。まだやれるだろう！ Kを見ろよ。Kの頑張り比べたら、全然だよ。みんな、もっと限界までやれよ。」



Kというのは1つ後輩の部員です。運動能力が高くなく技術も下手だったのですが、Kをバカにする人間はいませんでした。なぜなら、彼は決して手を抜くことなく、常に必死に練習してるのが、見れば誰でもわかるからです。SはそんなKをいつも部員の前で褒めていたそうです。暇さえあれば技術指導をし、声をかけて励ましていたと聞きました。

Sを部長としたこのチームは、地区総体では優勝チームからわずか2点差で負けてしまいました。しかし、新人戦の頃はトリプルスコア以上の差で負けた相手を、試合開始から終了までずっとあわてさせたのですから大した成長です。そして何よりも、「このチームはSと選手たちが創り上げたチームだ」ということです。私はそれ以来、ずっとこのチームを理想のチームとしてきました。なぜなら、Sとこのチームの選手たちは、「地区総体」というステージでは“敗者”かもしれませんが、「中学生」とか「人生」というステージで見れば、大切なものを手に入れた“勝者”だと言えるからです。私は、部活動で最も大切なことをSと彼らに教えてもらったと思っています。

さあ、地区総体がやって来ました。どの部員にも、特に3年生にはそれぞれの想いがあるはず。その想いをいい形でぶつけ、“勝者”として堂々とビクトリーロードを上げて、報告に来てください。楽しみに待っています！

